

## 東京音楽大学付属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	インドネシア・中部ジャワ州西部バニュマスの民衆芸能「エベ」－その内容と特色、人気の背景を探る－
Title in another language	"Ebeg", the Fork Performing Arts of Banyumas, the southwestern part of Central Java in Indonesia – Research of the contents, feature and the background of its popularity –
Author(s)	木村 佳代 (KIMURA Kayo)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 9, p. 21-34
Date of issue	2020-03-27
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	<a href="http://www.minken1975.com/publication/IE_B09201903.pdf">http://www.minken1975.com/publication/IE_B09201903.pdf</a>

## インドネシア・中部ジャワ州西部バニユマスの民衆芸能「エベ」 —その内容と特色、人気の背景を探る—

"Ebeg", the Fork Performing Arts of Banyumas,  
the southwestern part of Central Java in Indonesia  
— Research of the contents, feature and the background of its popularity—

木村佳代 KIMURA Kayo

インドネシアには竹で編まれた扁平の馬の人形にまたがって踊り、伴奏のガムラン音楽が最高潮に達するとトランスになる芸能が各地に存在する。地域によりジャティラン Jathiran 等様々な呼び名があるが、中部ジャワ州西部のバニユマス Banyumas 地方ではエベ Ebeg と呼ばれ、現在も盛んに上演されている。アニミズムの伝統が色濃く残るバニユマスにおいては他にも数多くの伝統芸能が継承されているが、時代と共に廃れつつあるものも少なくない。そんな中で、現在でも農村部のみならず都市部においても頻繁に上演され、大勢の観客を引き寄せるエベの人気の源はどこにあるのか？そもそもエベとはどのような芸能なのか、その内容や上演目的、トランスが意味するもの、音楽的特徴などを検証しつつ、現地でのインタビューを元に現在の隆盛の秘密を探る。

キーワード：エベ Ebeg、バニユマス Banyumas、ジャワ Java、トランス Trance

### 1. はじめに



図1 中部ジャワ州 (Wikimedia : 2008)

バニユマスは中部ジャワ州西部に位置し、バニユマス、チラチャップ Cilacap、バンジャルヌガラ Banjarnegara、プルバリリング Purbalingga の4つの県を中心とした地域を指す。肥沃な土地で農業、漁業が盛んであり、近年はプルウオクルト Purwokerto 駅周辺に豪華なホテルが立ち並ぶなど、開発も進んでいる。スラカルタ Surakarta やジョグジャカルタ Jogjakarta といったジャワの中心地から遠く離れたこの地域では、王宮文化とは異なる民衆によっ

てはぐくまれた独自の文化が現在でも色濃く残り、様々な伝統芸能が継承されている<sup>1</sup>。その中でも現在もっとも盛んに上演されているのがエベである。筆者は十数年前より現地調査を繰り返しているが、いつ訪れてもエベは週末なら必ずと言って良いほど見る機会に恵まれた。トランスを伴うこの芸能はどこかミステリアスで独特の雰囲気漂わせているため、筆者は当初見ていて怖さすら感じたものだが、現地では老若男女問わず大勢の観客を引き寄せ、盛況を博している。そのようなエベの人気の秘密はどこにあるのか？バニユマスの音楽を知る上でもエベという芸能の根底に流れるもの、バニユマスの人々が長年大切にしてきた芸能・文化に対する思いに焦点を当てることは有益であると考えた。まずはエベの内容そのものについて検証する。

## 2. エベとは？

### 2-1. 概要

エベは竹で編んだ扁平の馬の人形にまたがって踊る芸能のことで、バニユマス以外の地域でも同類の芸能はジャティラン、クダ・ルンピン Kuda Lumping、ジャラン・ケパン Jaran Kepang などと呼ばれ広く分布している。バニユマスにおいてもエベのほかクダ・ルンピン、クダ・ケパン、エンブレ Embleg、ジャラン・ドル Jaran dor 等様々な呼び名がある [Yusmanto 2015:5]。どの地域においても、この種の芸能は途中で踊り手がトランス（半覚醒状態）になり、無心に踊り続けたり特別な力を発揮させたりして観客を魅了するのが特徴である。

エベは大変古くから伝わる芸能で、一説によるとモジョパヒト王朝<sup>2</sup>時代にはすでにあつたのではないかとされている [Yusmanto 2015:5]。馬の人形にまたがった踊り手は、クディリ王朝<sup>3</sup>を背景とした「パンジ Panji 物語」に登場する勇壮な兵士が決戦に向かう様を描いたとされている。グループによっては、その他にもチェペ Cepet とプントウル Penthul と呼ばれる仮面を付けた滑稽な踊りや、物語に登場する獰猛な獅子シンガ・バロン Singa Barong を描いたとされる獅子舞バロンガン Barongan が行われることもある。更に、トランスになった男性の踊り手に籠が覆いかぶさり、しばらくして籠が開けられる



写真1：エベの踊り手  
チラチャップ県 Adipala 郡  
(2017年8月22日筆者撮影)



写真2：エベで使用する馬の人形  
バニユマス県 Pathikraja 郡  
(2013年3月20日筆者撮影)



写真3：エベで使用する仮面  
バニユマス県 Pathikraja 郡  
(2013年3月20日筆者撮影)



写真 4 : バロン (獅子)  
パヌマス県 Pathikraja 郡  
(2013 年 3 月 20 日筆者撮影)



写真 5 : ライサンで使用する籠  
パヌマス県 Rawalo 郡  
(2013 年 8 月 16 日筆者撮影)



写真 6 : トランスになった踊り手  
チラチャップ県 Karangpucung 郡  
(2018 年 3 月 24 日筆者撮影)

と踊り手は鎖でがんじがらめとなり、その後もう一度籠がかぶさり開けられると女装して出てくるといふ、まるでマジックのようなライサン Laisan<sup>4</sup> と呼ばれる芸能が途中で演じられることもある。エベの芸能集団の人数はグループによって異なるが、踊り手、パワン Pawan またはプニンブル Penimbul 等と呼ばれる祈祷師（リーダーであることが多い）とそのアシスタント、ガムラン演奏家を含め 20 名程度である。

## 2-2. エベの進行

エベは朝や夜中に行われることもあるが、たいていは昼間の上演であり、太陽が照り付ける中、あるいはスコールが地面を叩きつける中でも行われる。1 回の上演時間は、現在は 4～5 時間程度である。エベの進行は、およそ以下の通りである。

### ① ガムラン演奏

観客が集まるまで、またはエベの準備が整うまで、ガムランが数曲演奏される。この後、エベの上演が終了するまでガムラン演奏はほぼ途切れることはない。

### ② 踊り手登場、敬礼、踊り

踊り手が竹製の馬にまたがって登場。まず馬を持ってひざまずき、東西南北の方角に向かって敬礼する。各方角に存在する霊に敬意を表するためと言われる。その後、馬を操りながら踊る。

### ③ トランス

ジャントゥラン Janturan と呼ばれるこのシーンでは、踊り手がトランスになる。まさにエベが最高潮に達するシーンである。まず踊り手の輪の中央で香が焚かれ、音楽のテンポが増し、急激に変化すると踊り手は突然倒れるなどしてトランスになる。手足が硬直し、険しい目つきとなる。その後は馬を手放し、祈祷師に操られるなどして再び踊り始める。

### ④ 芸

トランスの状態では様々な芸をする。動物の霊が乗り移った場合にはその動きを真似たり、

サジェン Sajen と呼ばれるお供えの品々を手を使わずに食べたり、鞭で打たれたりする。また前述のライサンのような芸を披露し、終わると観客の方へ歩み寄り投げ銭を要求することもある。さらには家族に病人がいる人へ薬を授けたり薬の有りかを教えたりする。

### ⑤ 目覚め

最後に祈祷師がトランス状態の踊り手に香をかがせる、あるいは頭を押さえつけるなどして踊り手に宿った霊が体から離れるよう祈り、トランスから目覚めさせる。

## 3. エベの上演目的

エベは以下のような目的により上演される。

- ① 結婚式
- ② 割礼の儀式
- ③ 病気治癒祈願
- ④ お祓い
- ⑤ 雨乞い・雨よけ
- ⑥ カウル Kaul、またはナダル Nadar (誓いの儀式)
- ⑦ 娘の婿探し
- ⑧ 新しい踊り手探し
- ⑨ 独立記念日等の祝い
- ⑩ 観光

たとえば②の割礼の儀式では、割礼を受ける男の子が神輿にかつがれて家を出発し川に向かう時からエベが始められた。サロン Saron、クノン Kenong、クンプル Kempul、ゴング・スーアン Gong Suwukan、太鼓等の楽器はかついだり首に下げたりしてパレードしながら演奏された。その後男の子は川に入る。冷やすことで痛みを和らげ出血を減らす狙いもあったという。川にはマハルツ・ハルス Makhluk Halus と呼ばれる精霊が住んでいて、人が川に入ると怒って悪さをすると信じられていたので、それを防ぐためにエベが上演された。精霊を魅了させ、怒ることを忘れさせるためと言われる。また子供の恐怖心を癒す目的もあったという。このような儀式はチラチャップ県のある村では1970年代までは行われていた [Kisumo 1994:88-89]。

この中でもっとも特徴的なものと言えば⑥のカウル、またはナダルであろう。「神への誓いの儀式」のことであり、バニユマス以外の地域においても、またエベ以外の芸能においても行われる。何か願いごとをした時に、その願い事が叶った暁にはエベを上演しようと誓う。たとえば、子供が重篤な病にかかった時に、家族が「もしこの子が元通り元気になったらエベを上演しよう」とつぶやいたとする。一度口に出したことは実現させなければならない。もし約束が果たされなかったら、その子供は再び病にかかるか、その家

族に災いが生じると信じられていた。そこで、その誓いを果たすべく、エベが上演された。誓いの儀式では、村の長老により誓いが果たされたことが述べられた後に、クトゥパ Ketupat と呼ばれる椰子の葉で編んだものの両端を儀式の当事者と踊り手がつかんでひっぱると、中からご飯が飛び出し、それによって誓いが果たされたことが象徴的に示されたという [Kisumo 1994:87]。

また⑦の娘の婿探しに関しては、以前チラチャップ県で年頃の娘を持つ家族がエベの上演を依頼したことがあったという。エベの公演は通常主催者が一切の経費や食事代、謝礼を負担する。ただし、以前はその財力が無くても上演することができた。たとえば、貧困層の家族が服装が粗末なゆえ外に出るのも恥ずかしがるような年頃の娘に婿をと願い、村のエベのグループに公演を依頼すると、食事さえ準備すれば謝礼無しでも上演が許された。食事の準備も村人総出で行われた。公演中に年配の踊り手はその娘の名を心の中で呼ぶとその娘がトランスになり、突然踊り出す。その踊りがあまりに魅力的なので、多くの観客の男の子がその娘に夢中になり、結婚にまで至ったというのである [Darno 2008]。

#### 4. トランスとインダン Indhang

エベの最大の見どころといえば、やはりトランスになる瞬間、トランス後の憑りつかれたような表情や踊り、そして人間業と思えぬ様々な芸であろう。最近では踊り手のみならず観客の中からもトランスになる者が次々と現れ、会場中がただならぬ熱気の渦に包まれる。トランスになった状態のことをバニユマスではムンドゥム Mendhem という。酒に酔った場合も同じ単語が使われるが、確かに酔っ払いのようにも見える。実際、踊り手はトランスになった時のことはまったく覚えていないという。トランスから覚めると疲れてはいけるけれども、とても爽快な気分だという [Nurdin 2019]。

バニユマスでは、エベの上演中にトランスになることはすなわち、インダンと呼ばれる精霊が憑依した状態だと考えられている。インダンは一般的に願い事を叶えてくれる良い霊であり、先祖、あるいは動物の霊であることが多い。たとえば猿のインダンが憑依すると椰子の木によじ登って椰子の実をもいだり、胸や背中をかきむしったりする。馬のインダンが入るとのけぞってヒヒーンと嘶く。蛇のインダンもあり、地上を蛇のように這って移動するという。祖先の霊が憑依すると、途端に踊りが上手になり、ある者は美しく、またある者は人間業とは思えないような力を発揮する。鞭で打たれても平気であったり、椰子の実の堅い殻を歯で食いちぎったり、ガラスの破片を食べたりするのである。

インダンが憑依しトランスになるためには、サジェンと呼ばれるお供えを用意しなければならない。そのお供えとは、たとえば水や煙草、椰子やサトウキビ、米、芋、卵、バナナ等の果物、花、お香など様々であるが、インダンが好むものを揃えなければならない。もしそのようなものを揃えないと、インダンが怒って本番がうまくいかなくなることもあるという。

また、トランスになるためには、踊り手は普段から断食、瞑想などの修行を重ねて努力しなければならない。筆者はバニユマス県にてエベの公演前夜に演者たちがお墓で聖水を浴び、瞑想して祈りを捧げる場に同行したことがある。そのグループは公演前夜には必ず瞑想をする。同行するにあたり、まず生理中の人には行ってはいけないことを告げられ、また瞑想の際には頭を空っぽにしてはいけない、と注意された。余計な何かが頭に入らないよう、一心に祈りなさいという。実際にその場で瞑想が行われると、真っ暗闇の中で突然一人の演者がトランスになり、険しい形相で何かをつぶやいていた。その土地の先祖が下りてきたのだという。そのような瞑想等の修行や儀式を経て、はじめてエベの公演でインダンが降りトランスになるのだという。



写真7：お供えを食べるトランス状態の人  
バニユマス県 Somagede 郡（2015年8月10日筆者撮影）

バニユマスの言葉に、インダンから派生した「ンギンダンギ Ngindhangi」という表現がある。“インダンに守られている感覚”を指すのだという。インダンに見守られて、心安らかで安泰である様を意味している。古代アニミズムの思想が根強く残るこの地で、農業や漁業を糧とした庶民が日々の平安を得るために、先祖や超自然的な力に敬意を表し、つつましく生きる姿がこのような表現に表れている。

## 5. 音楽の特徴

エベの伴奏楽器として使用されるガムランの楽器は、ジャワの王宮に伝わるような青銅製ではなく一般的に鉄製である。看板などの廃材が利用され表面は金色に塗られている。青銅製の楽器に比べ余韻が短く軽い音がするので、エネルギーでテンポの速いエベの伴奏曲にはこちらの方が適している。

以前は、ブンデ Bendhe と呼ばれる持ち運びが可能な小編成のガムランが使われた。また、1990年代初めのチラチャップのグループの例では、2個の太鼓（チブロン Ciblon とクティピン Ketipung）、大小のサロン、大小のボナン Bonang、小型ゴングと6の音のクンプルという編成であった [Kisumo 1994:47]。現在では更に大きな編成もあるが、グンデル Gender やガンバン Gambang のような柔らかな響きの楽器



写真8：ガムラン演奏  
バニユマス県 Purwokerto（2019年3月16日筆者撮影）

はあまり使われていない。それは、踊りの性格上、あるいは野外の演奏ゆえ大きな音量が必要とされるため、またテンポの速い曲が多く繊細な音色を聞かせる場があまり無いためであろう。その他、スロンペット *Slompét* と呼ばれるチャルメラ風のラッパが使われることもある。さらにバニユマスの音楽に無くてはならない歌や掛け声はエベの伴奏においても必須であり、マイクで増幅され大音響で会場中に響き渡るのが常である。

バニユマスの音楽は基本的にスレンドロ音階<sup>5</sup>である。エベで演奏される曲は、リチ・リチ *Ricik-ricik*、スカル・ガドウン *Sekar Gadhung*、レンゴン・マニス *Renggong Manis*、トレ・トレ *Thole-thole*（この曲は客に投げ銭を要求する時に決まって演奏される）などバニユマスの伝統的な曲が中心だが、中でもエベで頻繁に聞かれるのがエリン・エリン *Eling-eling* である。踊り手がトランスになる時、トランスから戻る時、その他のシーンでも1回の上演で何度も繰り返し登場する。歌詞の中に「思い出して、誰もが再び帰ることを」という表現があることから、精霊インダンが自己を“思い出して”踊り手の姿を借りて現れ、また踊り手が自己を“思い出して”目覚めることに通じるからだと思われる<sup>6</sup>。

エベの伴奏音楽の特徴は、何と言ってもテンポやダイナミズムの急激な変化であろう。特にトランスになる瞬間、あるいはトランスから戻る時、音楽はテンポも音量も次第に盛り上がり、突然急激な速さとなる。その瞬間に踊り手はトランスになり倒れ込む。会場の中心にはエベの進行をつかさどる祈祷師が香を炊いたり合図を送ったりしているが、実際に踊り手の動きを制御するのは音楽の役割である。特にテンポを決める太鼓奏者の役割は大きい。トランスになる際、テンポが思ったほど速くならず踊り手がトランスになりきれなかった際に、祈祷師が太鼓奏者に向かってもっと速く、と手を振って合図しているのを目撃したこともある。エベの劇的なパフォーマンスは、まさに音楽の力により成立し際立たせられているのである。そのようなエベの踊り手と音楽との関係は、影絵芝居ワヤン *Wayang* にもたとえられよう。エベの進行をつかさどる祈祷師がワヤンでいえば人形遣い *Dalang* であり、彼の指揮に従って適切な音楽を繰り出していくのが楽隊、その音楽に乗って生き生きと動くエベの踊り手は、まさにワヤン人形のようなものである<sup>7</sup>。

ワヤンと言えば、馬に乗った兵士が戦場に赴く見せ場のシーンがあり、馬のパカパカとした歩みを連想させる軽快なリズムにのって巧みな人形さばきが披露されるが、エベにおいても序盤のトランスになる前のシーンでは、踊り手が竹製の馬を器用に操り、落ち着いた等拍のリズムに乗って表情豊かに踊り続ける。尻尾を揺らしたり頭を持ち上げたり、時にユーモラスな雰囲気をつたえたこの踊りの伴奏音楽は、特にリズムが馬の歩みを連想させ、トランスになる時とは異なるもう一つのエベらしい特徴を備えている。

## 6. 近代化とエベ — 衰退と復活 —

### 6-1. 1990年代以降の変化

1970年代頃まで盛んだったエベも、他の芸能の例に漏れず近代化とともに一度は減少傾向にあったようだ。1990年代、チラチャップ県のエベが盛んだったブンブラン Bengbulang 村にも近代化の波が訪れ、山道がアスファルト化し町の文化が流入されると、いつしか独立記念日にはエベに代わり映画が上映されるようになり、エベは時代遅れと感じられるようになった。医療も向上し割礼も病院で行われた。かつてのようにエベで病気治癒を懇願する必要も無くなった。雨よけ、雨乞いのために上演されることもない。何より教育の発達により論理的に思考することを教えられたがゆえに、ミステリアスなものへの信仰が薄らいでいった。そのような変化により、エベを上演する目的そのものが失われ、上演の機会が減ってしまったのだ [Kisumo 1994:95-102]。

ところが、筆者がバニユマスに通い始めた 2010年以降、エベは決して廃れた芸能ではなかった。バニユマスを代表するもう一つの芸能・舞踊レンゲル Lengger は、近年は風紀を乱すとの理由で夜間の上演が禁じられた地域もあり、なかなか簡単には見ることができない。それに比べるとエベは比較的たやすく見る機会に恵まれた。最近では田舎のみならず都会でもエベが盛んに上演されている。更に、以前は富裕層や地位の高い人々はエベを見るのを恥ずかしがる傾向があったが、現在はそんな彼らにも好まれているという。

何よりも、エベ人口が多いと感じる指標となりそうな数字がある。バニユマス県とバンジャルヌガラ県におけるエベのグループの数である。

○ バニユマス県 (2015年の人口約 164万人 [BPS Kabupaten Banyumas])

354 グループ [Yusmato 2019]

○ バンジャルヌガラ県 (2015年の人口約 90万人 [BPS Kabupaten Banjarnegara])

283 グループ [Yusmanto 2019]

1 グループが平均 20名位であることを考えると、人口比率から見てかなりの数と言ってよいであろう。なぜグループ数がわかるかという点、この2つの県にはエベ協会があり、統計を取っているからだという [Yusmanto 2019]。バニユマスの他の県、プルバリングやチラチャップにはまだ協会は無いので実態は不明だが、おそらく同じくらいの割合でグループが存在しているだろうとのこと。グループ数の面からも、エベの勢いが伺えよう。何よりエベ協会が設立されたこと自体が近年のエベ・ブームを物語っているが、その中の一つ、バニユマス県のエベ協会について記す。

## 6-2. バニユマス・エベ協会設立

バニユマス・エベ協会 Pakumas (Paguyuban Ebeg Banyumas) は、2015年1月に設立された。創立者のスヘルマン Suherman 氏は元地方議員。エベには以前から関心を寄せていたが、自身の息子が事故で怪我をした際にカウル（誓い）を唱え、治癒した暁にエベを上演したのがきっかけとなり、エベの演者たちにもっと活躍の場を与えたいと協会を設立した。これまで同県内のエベのグループの調査、保護、支援活動を続けている。たとえば

2019年9月には県内のエベの演者500人ほどを集め、バニユマス最大の町プルウォクトにて“ムンドウム・ジョコウィ Jokowi”という名のイベントを開催した。ムンドウムはトランスのこと、ジョコウィは現在のインドネシア大統領の呼び名である。ジョコウィを支持し平和を願う気持ちを込めて開催された。そのようなやや政治色がからむイベントもあったが、しかし同協会のこれまでの活動の中でもっとも注目すべきものは、やはりエベ・フェスティバルの開催であろう。

### 6-3. エベのコンテスト

エベ・フェスティバルとはすなわち、エベの優劣を競うコンテストのことである。スヘルマン氏は、バニユマスの27の郡からそれぞれ1グループずつ選び、27か所の会場で27週に渡ってエベのコンテストを開催した。2014年10月から2015年4月まで毎週末行われた。半年間、バニユマス県のどこかで毎週日曜日にはコンテストが開催されていたわけで、エベの歴史においても画期的な行事であっただろう。最終日には優勝チームが発表され、スポンサーのスズキからバイクが賞品として送られた。



写真 9：バニユマス・エベ協会会長スヘルマン氏  
バニユマス県プルウォクト  
(2015年3月8日筆者撮影)



写真 10：エベ・フェスティバル  
バニユマス県プルウォクト  
(2015年3月8日筆者撮影)



写真 11：エベの踊り手  
バニユマス県プルウォクト  
(2015年3月8日筆者撮影)

コンクールの審査員の一人、ダルノ氏によると、審査の基準は近年失われつつあるバニユマスらしさ、つまりエベのオリジナリティをいかに重視しているかにポイントを置いたという。それは踊りの振り、音楽、衣装、馬の人形、香、お供えの品々、備品にいたるまで、すべてに渡ってチェックされた。たとえば踊りの振りであれば、近年はチャキラン Cakiran と呼ばれるワヤンの人形チャキル<sup>8</sup>の動きを模した踊りが流行り、手を関節の部分でクルクルと器用に回す振りが人目を引くので多くのグループが行っていたが、これはエベの伝統的な振付ではないとして低く評価されたという。そのような審査基準によって優勝チームが決まると、他のチームから抗議が起きた。おそらく、もっと見栄えのするパフォーマンスをしたグループは他にあったのであろう。しかし、審査の基準を説明し、今後はエベの伝統を皆で共有して学びつつ、芸能の質を共に高めていこうと呼びかけ納得させたという。その後、エベの内容はよりバラエティーに富んだものとなり、コンテストを行った意義は十分にあった、と現地の関係者は語っていた。

## 7. エベの人気の理由と背景

そのような一大イベントの開催などエベ協会の活動や支援のおかげもあり、エベは現在バニユマスでもっとも上演される機会の多い伝統芸能となっている。しかし、一旦は衰退しつつあったエベが今日のように復活し更なる発展を遂げている理由はそれだけなのか？

先に記したように、かつてのような割礼や雨乞い、雨よけ、病気治癒といった伝統的な儀式を伴う上演の回数は減り、近年はもっぱら結婚式や独立記念日等の祝い事や観光目的による上演が増えている。そのように目的が変化しつつも、なぜ現在のバニユマスの人々がエベを求めるのか？その理由について、筆者は現地でインタビューを行った。そこで得た答えが、以下の通りである。

- (演者にとっては) 自己表現の場となる。
- 超人的な力が発揮でき、注目される。
- 大地・宇宙との一体感が感じられる。
- (演者も観客も) 伝統継承に貢献し、バニユマス人としての誇りが得られる。

特に富裕層や実力者がエベを好むのは、バニユマスの伝統継承に自ら貢献しているという誇りが得られるからという理由が上げられた。その他、エベの踊り手にインタビューした際、踊り手になって良かったこととして「友達がたくさんできるのが嬉しい」という発言もあった [Nurdin 2019]。エベは、グループのリーダーを除くと総じて貧困層が多い。インタビューに応じてくれた踊り手の若者も、家は貧しく日雇いで暮らしていた。そんな彼らにとって、エベは自己実現の場であり、人とのコミュニケーションをはかる場なのであろう。エベの収入は決して多くはなく、エベだけでは暮らしていけない。彼らがエベに求めるのは、決して金銭的な理由だけではないのである。

以上のような肯定的な理由がある一方で、以下のような意見もあった。

- 今の社会は刺激的なものを求めている。
- 哲学的なもの、深い内容のものより、簡単に享受できるものを欲する。
- 日頃のストレスを忘れ、リラックスできるものを求める。

バニユマスの伝統的な踊りよりも、見た目には派手な踊りが好まれる、トランス後に人並はずれた力を発揮させる場で、最近では蛍光灯を頭で割って食べたり、生きた動物を口で引きちぎったりと、芸がどんどんエスカレートしている、といった傾向も、より刺激的で簡単に享受できるものを求める今の観客の嗜好が反映されているといえよう。それは、バニユマスに限ったことではなく、実はほかの地域の芸能においても言えることである。最近では影絵芝居ワヤンも変わってしまったという意見をよく聞く。昔は鑑賞する側にもそれなりの知識や下地があり、語りを吟味し味わって鑑賞するものであった。集中して鑑賞し、翌日には友人たちと昨日見たワヤンについて語り合うことも多かった。しかし現在は、物語や語りよりも途中のお楽しみコーナーにおける漫才やコント、歌ば

かりが好まれる傾向にある。今の社会は決して深いものを欲せず、ストレートに感じ取れるものしか欲していない。伝統芸能の背後にある哲学的なものが軽視されるがゆえ、それらの芸能は単なる余興と化してしまったという [Sukamso 2019]。そのような現代における伝統芸能の姿は、実ほどの国や地域においても見られる傾向なのかもしれない。競争社会においてストレスを抱えた人々が憂さ晴らしのために癒しの空間を求める、そのような社会的背景があるからこそ、より刺激的、享乐的な芸能が嗜好されているのかもしれない。

## 8. まとめ

長い歴史を経て伝承された芸能が近代化の波を受け、本来の形を変えつつも何とか存続しているという状況は、どこの国においても見られることであろう。バニユマスのエベは、上演目的や内容を変化させつつ、現在も尚根強い人気を保っている。儀礼、踊り、音楽、衣装等バニユマスの伝統芸能のあらゆる要素が盛り込まれたエベは、バニユマス人にとっての誇りであると感じている人は多い。その反面、エベが本来持つ精神性が失われ、表面的なものになりつつあることに危惧を感じる人も少なくない。エベの踊り手にインダンという名の聖霊が憑依しトランスになるためには、踊り手自身が事前に断食や瞑想等の修行を重ねることが必要なのだが、最近は修行をせずにトランスになったふりをする、あるいはトランスになれるよう祈祷師に頼むという安易な方法をとる人も少なくないのだという。いずれはガムランさえ使わないエベも登場するかもしれない、と嘆く声も聞く。

エベを追っているうちに、一つ気づいたことがあった。他の芸能において、たとえば影絵芝居ワヤンや民衆舞踊レンゲルにおいては、有名なダラン（人形遣い）や有名な踊り手の名を聞くことはあるが、エベにおける有名な踊り手の名を聞くことはない。その理由を現地で尋ねたところ、エベは集団で行う芸能なので、踊り手一人一人の名は重要ではなく、グループのリーダーの名前が知られる程度であるという。しかし、それだけが理由ではないと筆者は考える。エベの踊り手が観客を魅了するのは、その踊り手自身の技量がすぐれているというよりは、その踊り手に憑依したインダンが魅力的であるから、と考える方がエベの本来の意味に即しているであろう。踊り手自身はエベのパフォーマンスにおいて決して主役ではなく、実は自然の中の目に見えぬ存在、祖先といったものを体現させるメディア（媒介）なのである。そういったエベの哲学、精神性が忘れられない限り、どんなに形を変えてもエベの存在意義は失われたいのではないか。そして、そのような哲学、精神性、それに伴う知識を受け継ぎ、後世へ伝えていく人材が途切れないことが重要なのであろう。さらに、そのような芸能の核となる伝統や自然への畏敬の念、敬う気持ちが観客等受け取り側にも備わっていることが、その芸能の存続に真の意味で貢献しバニユマス人としての誇りを得ることにつながるに違いない。



動画 1 : トランスの瞬間<sup>9</sup>  
バニユマス県 Kemranjen 郡  
(2016 年 8 月 21 日筆者撮影)



動画 2 : トランス状態で椰子の実をかじる踊り手  
チラチャップ県 Karangpucung 郡  
(2018 年 3 月 24 日筆者撮影)

註 :

- 1 詳しくは、木村 2014:24-27 参照。
- 2 13 世紀末から 15 世紀末にかけて東ジャワを中心に栄えたヒンドゥー王朝。
- 3 10 世紀から 13 世紀初頭にかけて東ジャワで栄えたヒンドゥー王朝。
- 4 女装した姿はパンジ物語に登場するスカルタジ Sekartaji 姫を描いているとの説もある。[Yusmanto 2015:6]
- 5 音と音の間がほぼ均等な五音音階。ジャワにはもう一つ、琉球音階に似たペログ音階があり、バニユマスでも近年はペログ音階の楽器を使用することも増えている。
- 6 木村 2016:32-34 参照。
- 7 実際エベの踊り手のことをワヤンと呼ぶ場合もある [Yusmanto 2015:13]。
- 8 ワヤン中盤に登場する牙の生えた魔物。俊敏な動きで武将と戦うシーンは人形遣いの腕の見せ所である。
- 9 動画は電子版参照のこと (<http://www.minken1975.com/publication.html>)。

参考文献 :

Kisumo.

- 1994 Studi tentang bentuk dan perubahan fungsi pada kesenian Ebeg Ki Kasmadi di desa Bengbulang. Sekolah Tinggi Seni Indonesia Surakarta.

木村, 佳代.

- 2014 インドネシア中部ジャワ州バニユマス地方の民衆音楽—竹のガムラン「チャルン」の音楽を軸に— .ライブラリーレポート . 創刊号, p.20-44
- 2016 ジャワ・ガムランの古典曲「エリン・エリン」研究—宮廷音楽と民衆音楽の相互交流—. 伝統と創造 .Vol.5, p.29-42 ([http://www.minken1975.com/publication/IE\\_B05201503.pdf](http://www.minken1975.com/publication/IE_B05201503.pdf))

松本, 亮.

2011 ジャワ舞踊バリ舞踊の花をたずねて—その文学・ものがたり背景をさぐる．めこん．  
**Sutton, R. Anderson.**

2008 Traditions of Gamelan Music in Java: Musical Pluralism and Regional Identity.  
Cambridge University Press.

**Yusmanto.**

2015 buletin Pakumas, warta budaya penginyongan. No. 1

オンライン記事：

**Wong Banyumas** (ユスマント氏のブログ)

[https://panginyongan.blogspot.com/?fbclid=IwAR0uQihSZZYJ6p\\_GrKHxwkQXVQJze4n942RuwLigfRT1v2YjveHiljk8hHI](https://panginyongan.blogspot.com/?fbclid=IwAR0uQihSZZYJ6p_GrKHxwkQXVQJze4n942RuwLigfRT1v2YjveHiljk8hHI) (アクセス日：2019年11月11日)

**BPS Kabupaten Banyumas**

<https://banyumaskab.bps.go.id/statictable/2017/02/17/134/jumlah-penduduk-dan-laju-pertumbuhan-penduduk-menurut-kecamatan-di-kabupaten-banyumas-2010-2014-dan-2015.html> (アクセス日：2019年11月12日)

**BPS Kabupaten Banjarnegara**

<https://banjarnegarakab.bps.go.id/statictable/2015/12/02/13/banyaknya-desa-keurahan-luas-penduduk-dan-kepadatan-menurut-kecamatan-di-kab-banjarnegara-tahun-2015.html> (アクセス日：2019年11月12日)

インタビュー：

**Darno**

2008 ガムラン、チャレン演奏家・研究者。国立芸術大学 ISI スラカルタ校教師。  
1966年チラチャップ県出身。(12月30日、国立芸術大学 ISI スラカルタ校にて)

2019 同上 (8月27日、国立芸術大学 ISI スラカルタ校にて)

**Nurdin**

2019 エベの踊り手。バニユマス県出身。(8月11日バニユマスのエベ会場にて)

**Sukamso**

2019 国立芸術大学 ISI スラカルタ校教師。1958年スラゲン Sragen 県出身。(8月26日国立芸術大学 ISI スラカルタ校にて)

**Sukendar**

2019 太鼓奏者。竹の楽器チャレン製作者。1950年バニユマス県出身。舞踊レンゲルとチャレン演奏のグループ「ランゲン・ブダヤ Langen Budaya」主宰。芸術高校 SMKI 教師。(8月9日バニユマスのご自宅にて)

**Yusmanto**

2019 ジャーナリスト。音楽家。バニユマスの音楽、舞踊、芸能全般に詳しい。1967年バニユマス県出身。(8月10日バンジャルヌガラのご自宅にて)

謝辞

Dances on flat bamboo-woven horses are found in various districts of Indonesia. In these performing arts, dancers usually arrive at trance when Gamelan accompaniment comes at a climax.

These dances have a variety of names such as *Jathiran*, but in Banyumas, where the performance is still active, *Ebeg* is usually used. Many traditional performing arts remained in Banyumas because of strong animism. However, some arts are disappearing as time changes. Nevertheless, still frequently performed both in rural and urban areas, they bring massive audiences: but what is the source of this popularity of *Ebeg*?

This author tried to discover a secret of present prosperity of *Ebeg* through some local interviews and research on what is *Ebeg*, its contents and the purpose of performance, as well as the motive of trance and its musical features.

本稿をまとめるにあたり、スケンダル氏、スヘルマン氏、ダルノ氏、ユスマント氏には多くの助言をいただき大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。

(本学講師、ガムラン)